

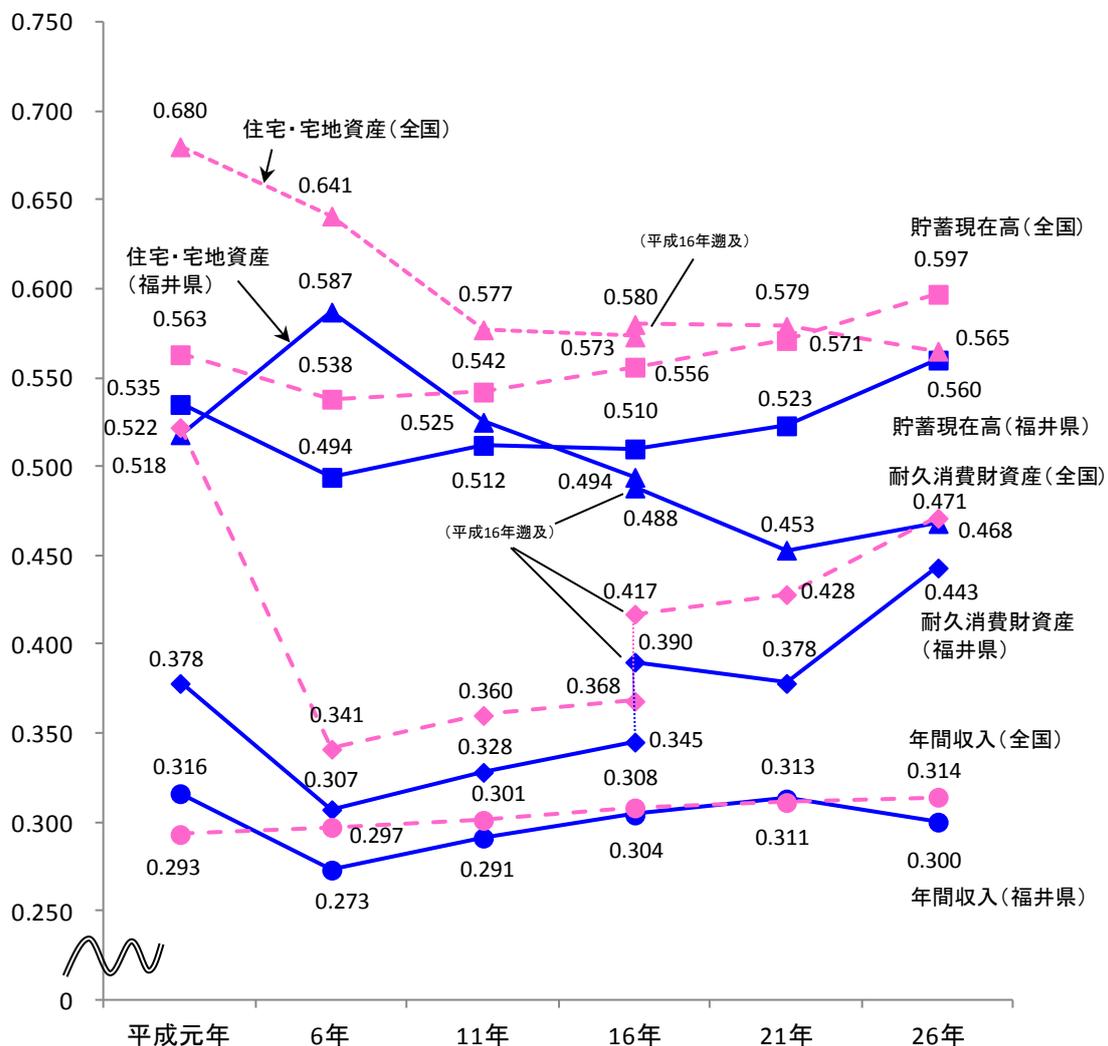
## V ジニ係数

### 1 概況

二人以上の世帯における年間収入のジニ係数は、平成26年は0.300（全国16番目）となり、前回（平成21年）調査結果の0.313から0.013低下している。

ジニ係数を資産の種類別にみると、貯蓄現在高、住宅・宅地資産、耐久消費財資産のいずれも年間収入より高くなっており、また、前回（平成21年）調査結果に比べ、いずれの資産も上昇している（図29）。

図29 資産の種類別ジニ係数の推移（二人以上の世帯）



※1 住宅・宅地資産及び耐久消費財資産は、減価償却を考慮し価額評価した「純資産額」を用いている。また貯蓄現在高は、負債残高を控除していない額。

※2 平成21年以降と16年以前では実物資産の価額評価方法が異なるため、21年の価額評価方法に合わせて遡及集計した16年の数値も併せて掲載している。